

# 研究公開文書

2021 年 10 月 12 日

<b>研 究 名</b>	人工股関節全置換術を施行する変形性股関節症患者の股関節機能と身体機能との関連
<b>研究の概要</b>	<p>高齢者における進行期～末期変形性股関節症は 50～60 歳代の女性に多く、症状の進行に伴い関節可動域制限や股関節痛、跛行が出現し股関節機能や生活の質 (QOL) が低下するとされている。症状の進行や疼痛を緩和させるために理学療法の介入が必要であると考えられる。</p> <p>股関節への累積負荷や脊柱骨盤アライメント、歩行機能の低下が変形性股関節症の進行や身体機能の低下に関連していると報告されているが、身体機能の低下が股関節機能の低下と関連するかは不明である。</p> <p>人工股関節全置換術 (THA) 術前の身体機能が股関節機能にどのように影響するか検討することで股関節機能の悪化を防ぐことができる。また、THA 術前の身体機能と股関節機能との関連を検討することで術後の身体機能と股関節機能について検討する前段階になると考える。そこで本研究の目的を、THA を施行する変形性股関節症患者における術前の身体機能と股関節機能との関連について検討することとした。</p>
<b>研究対象</b>	対象は倫理委員会承認後から変形性股関節症によりTHAを施行した者とする。大腿骨頭壊死や大腿骨頸部骨折によりTHAを施行する者、レントゲンにて骨盤前傾角度が測定できない者、両側THAを施行している者は解析対象から除外する。

研究責任者	小田原市立病院リハビリテーション室理学療法士 平田萌々花
研究実施期間	倫理委員会承認後～2023年3月
連絡先	小澤 哲也 小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175